

地域と関連付けて実感と学びの深まる税の授業を目指して

大江町立左沢小学校教諭 6学年 板坂 朋憲

実施年月日：28年12月5日～15日 26名

1 実践計画・指導のねらい

児童は、社会の動向に興味を持っており、特に新聞の一面やテレビ報道された話題には大変興味を持っている。一方で、税金については、言葉自体は聞いたことがあるが、種類や仕組み、自分自身との関わりについて理解している児童は一部である。本単元では、税金について理解した上で、学習を通して、自分自身が身を置く社会の問題点に気づき、日本国民としてよりよく過ごせる社会の形成に携わる力を育てていきたい。そのために、何が社会的に求められているのか課題について追究し、その実現にむけて試行錯誤する児童を目指し、身近な大江町の公共施設や町議会、租税教室を活用した授業を計画した。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、児童の反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・大江町の中央公民館「ぷくらす」が完成するまでにかかった資金や完成に至った経緯に興味を持つ。	○「ぷくらす」を建設し、運営するためにかかった費用はどこから出ているのでしょうか。 ●町のお金です。●高額なお金が使われていることを知りました。 ●税金を使っていることが分かりました。●税金にはどんな種類があるのだろう。 □広報大江平成26年9月号 中央公民館改築のための資金計画
2	・公共施設を建てるお金と税金の関係について学ぶ。	○国や県の収入と支出について調べ、税金がどんなことに使われているかまとめよう。 ●国の収入の半分以上が税金で賄われています。 ●支出を見ると、税金だけでは足りないみたいです。 ●税金が公共施設、社会保障や教育にも使われています。 □副教材「わたしたちのくらしと税金」
3	・町の税金を決める決定機関町議会について学ぶ。	○税金の使い道はだれがどのように決めるのか調べよう。 ●町が関係する税金は、町議会で議決されていることを知りました。 ●「ぷくらす」の資金は町議会で議決されたのだとわかりました。

【指導のポイント】<1時間目>

税金によって建てられた施設が身近にあることを実感できるようにするために、できたばかりの公共施設を取り上げ興味・関心を高めた。

【指導のポイント】<2時間目>

国や県の収入と支出に目を向け、税金によって生活が支えられていることを読み取れるよう副教材を活用した。

【指導のポイント】<3時間目>

税金の使い道をだれが決めているかを考え、次時の議会傍聴への意欲付けを図った。

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
4	・町議会の傍聴し税金の使途を議決する場面を見学する。	○町議会の様子を見て税金に対する理解を深めよう。 ●「子ども達のために税金を使って保障する」という内容を話し合っていました。議会で税金の使い道を話し合っていることが分かりました。 
5	・模擬議会を開催し、税について議論する。	○消費税率を30%にする議案について話し合みましょう。 ●賛成です。8%のままでは国の借金が増える一方なので、一時的に消費税を30%に増やし、借金が返せたら消費税を減らせばいいと思います。 ●反対です。国の借金は減るかもしれないけど、買い物する時に、高くても買物ができない人が出てくる可能性があり、国民にとってはつらいと思うからです。 
6	・本単元や租税教室で学んだこと振り返り、自分の考えを明らかにする。	○税金がないとどんなことが困るでしょう。 ●税金がないとゴミがあふれたり、公共施設を使うことができなくなったりする事がわかりました。みんなで税金を払っているから生活できることが分かりました。   □税のビデオ（マリンとヤマト・不思議な日曜日）

【指導のポイント】<4時間目>

実際に町議会の傍聴し、税金の使途を議決している場面をみることで、学習したことの深化を図った。

【指導のポイント】<5時間目>

議会を傍聴した経験をもとに、児童が議員になりきって、消費税率をあげることに議論した。児童は消費税率をあげることに對して、自分の考えを明らかにしながら真剣に議題に向き合えるよう支援した。

【指導のポイント】<6時間目>

大江町役場税務課の方を招いて租税教室を行った。単元末にやったことで、これまで学習したことの確認をできるようにした。税金の金額の大きさを実感したり、税金のない世界について考えたりできるようにした。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

◎児童が考えていることと社会の仕組みとのギャップが大きく、調べ学習をするたびに発見があり授業が盛り上がった。特に、自分の町の公共施設について考えたり、実際に議会を傍聴したりしたことで、実感を伴う学習ができ児童の理解が深まった。

◆税金の学習をする際に、参考となるインターネット上の教材が複雑で、そのまま児童が活用するには難しい。小学校社会科で扱うとすれば、もっと簡易でわかりやすい教材が普及すると児童も調べたり、読み取ったりする授業が可能になると考えられる。

(その他) 税金という教材は児童にとって身近であるが、既存の知識とのギャップが大きいため地域に関連する素材と結び付けて学習すると深まりが見られた。